

『今日は、当時、忍野村を治めていた代官所が、何処にあったのか？という話であったな。さて、クニマッスン質問じゃ。天保8年に、歴史の教科書に必ず書いてある、大事件があるんじゃが。その事件を知っておるか？』

『う～ん、分からないでまっすん。』

『「大塩平八郎の乱」じゃ。この乱の引き金だと言われておるのが、天保7年に起きた「甲州郡内一揆」と言われる有名な天保騒動じゃ。谷村の百姓が、米穀商に打ちこわしをしたんじゃ。その後、国中（甲府方面）にまで波及し、大騒動となった事件があったんじゃよ。この時、石和代官所の出張陣屋である谷村代官所の元締手代（地方役人）は常駐しておらねばならんのに、不在だったんじゃ。関係者は皆処罰されたんじゃ。凶作続きで、民衆は生きるために必死だったんじゃ。しかし

代官所の役人も、騒動を鎮めるために大変な苦勞をしたんじゃよ。』

『そうか、分かったでまっすん。忍野村からは、谷村の代官所の方が近いのに、なぜ、市川大門の代官所が関わったのか。郡内一揆が起きたために、谷村代官所は混乱していたでまっすん。』

『そうとも考えられるな。文章に正確なことが残っているわけではないから、断言はできん。しかし、そのように推測もできる。また、別の見方もできるんじゃ。当時、谷村代官所には、6名の役人しかおらんかったようじゃ。日本中が凶作だったんじゃ。役人の手数も足りなかったじゃろう。役人の多い所に応援要請をした？とも考えられんかのう・・・どちらにしても、古文書からは、大寄友右衛門という人、この人は、市川大門の名主であった。また、市川大門代官所の役人の中に、友右衛門の縁戚がいたことも分かっておるんじゃ。「忍野八海ものがたり」に出てくる、市川大門代官所は間違いで、谷村代官所ではないか？という疑問があるようじゃが、市川大門の代官所でなければ、大寄友右衛門と忍草村との縁はなかったじゃろうな。』

『講左衛門さん、今日は、本当に勉強になったでまっすん。歴史というのは、様々な側面から見なければ理解できないでまっすん。これからも、しっかり勉強していくでまっすん。』

『次回は、東円寺に残されている版本「忍野八海再興絵図」について、説明しようかのう。この版本は、富士山世界文化遺産の構成資産忍野八海の大切な資料として、イコモスに提出されたものなんじゃ。何が書かれておるか知りたいとは思わんか？』

『知りたいでまっすん。知らなくてはいけないでまっすん。』

『そう思ってくれると、嬉しいのう・・・次号もしっかりと伝えねば・・・責任重大じゃ。』

『講左衛門さん、楽しみにしているでまっすん。』

クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□癖 でまっすん..



ふじのたいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)